

個人山行報告書

通算山行NO	NO. 56	報告者	世古悦子
年月日	2008年10月12日~13日	2万5千	鳳凰山
山名	地蔵岳2764m・観音岳2850m、薬師岳2780m		
体力度 = 3・普通 技術度 = 3・普通 道標 = ある 駐車場 = ある トイレ = 青木鉾泉 展望度 = 素晴らしい 三角点 = 二等三角点 点名 = 観音岳			
素晴らしい展望を堪能する山稜			
コースとタイム	起床6:00 - 鳳凰小屋出発7:00 地蔵岳8:00~8:30 分岐8:53 観音岳9:35~9:40 - 薬師岳10:06~11:00 御座石分岐通過12:43 中道登山口14:20 - 青木鉾泉		
標高差	上り = 鳳凰小屋2382m~観音岳2840m = 458m 下り = 観音岳2840m~中道登山口1242m = 1598m		
参加者	1日目と同じ		

2日目報告 10月13日(快晴)

夕食に鳳凰小屋名物のカレー(前回食べた時より飯の状態、味付けも数段の進化?ではあるが辛い)を食べ、小屋に帰るとすでに寝ている人多し、とりわけすることもないので17時半頃床に就く。さわやかに目覚めたのが、22時頃。え~まだ夜ではないか!外は月で白夜のごとき明るさだ。真夜中になりおばけや、熊に出っくわすと恐ろしいので思い切ってトイレに一人で行くことにした。外より小屋の内の方が暗い、人を踏まぬように注意して、二人で一枚のふとんにもぐり込む。ホツツ。何とか寝たものの、今度は満天の星空を見逃してしまい、残念~!

食堂のある建物の入り口は6時より始まる朝食の順番待ちの人で外まで列が出来ている。外の4つあるトイレの前も人が並んでいる。広場では、自炊をしたり、話をしたりなど自然のなかで朝を満喫している人達で賑わっている。1m20ぐらいの高さに冬季小屋の入り口がある。雪がそこまで積もるのだろう。周囲の景色を楽しみながら、Tさんと私は持参のパン・トマト・魚・ムスビをゆっくりと頬張る。朝食組が戻ってきた。玉子・ご飯・漬物・で¥1,000とか。広場前の川原に張り出た岩場が絶好のカメラスポットだと小屋の主人が教えてくれた。青空と地蔵岳を背景に黄葉の多い中で紅葉がアクセント。だれが撮っても満足ゆく1枚になるだろう。

(今日はA隊・B隊一緒に薬師まで行こう)と後藤さん。言葉通り、地



蔵→観音→薬師岳までは離れても見える距離で先にすすんで頂いた。会長の伊藤さんがビデオがまわる。地藏岳まで1キロ、さあ出発。数分歩いて川原に下り、山道にとっかかるが、初めの1・2・3歩は段差が大きくヨッコラッショとよじ登る。いきなりの急登だが道がジグザグに進み歩きやすく、上に行くにしたがって勾配も緩やかになってくる。針葉樹林帯の中は、倒木や立ち枯れがめだち、登山道も荒れて幾度か道がかわったようである。木の根や枯葉などに蔽われて、進路を見間違ふ箇所があるが、樹林帯内は陽がさして明るいので慌てる事はない。

歩き始めてから20分ぐらいで左側が切れ、沢のむこうが見事に黄葉しているのがみえてくる。進路を左方向に変え、地藏岳の肩まで広がる傾斜のきつい砂礫帯に移ると、右側には、斜面に合わせるように岩峰が稜線に向かって延びている。その最頂点にある尖塔がオベリスク。迫力満点だ。(大岩の隙間にツララが下がっている。)今日、近ちゃんは元気げんき。昨日ばて気味だったのは酒を運んできたせいだと聞いたが・・・ご苦労さん。

半ばで振り返ると観音岳の左手に富士山が浮かび、雲海とその上にでている山々がみえる。仲間は何と見回すと、どの人も満面の笑顔。A隊は、すでに登りきり我々を待っている。その上、彼等は昨日もここまで来ているのでよゆう風がふいているようだ。『オベリスクに登ってもいいけど怪我は自分持ちだからね、時間が無いよ。』といわれつつ中村さんに続いてオベリスクの近くまで、急いで行って来た。岩場は、足場がとりやすく、手もひろいやすい、懐まではいくつもルートがあるが、そこから先は綱が何本も下がり垂直に近い岩の間に足場をみつけのっぼってゆくとか。賽の河原で集合写真を撮り、ハイマツ帯をぬけ石の階段をのぼっていくように岩場をのぼり、赤抜沢の頭にでる。



青空をバックにルンルンルン



地藏岳を背に観音岳の上り

天気よし、右手に地蔵岳→甲斐駒・千畳、観音岳→北岳、薬師岳→間ノ岳・農鳥等南アルプスの山々を近く、平行に見ながら、また、北アルプスや名だたる山々後方に見ながら稜線を一直線に進む。15分くらい歩くと斜面を左にまいて稜線に登り返すところがある。この稜線上で最大のアップダウン?である。降りきった場所が分岐になっているらしい。そこでA隊が一服しているのがみえる。山側も沢筋も一面花崗岩と風化によってできた小さな岩礫に覆われた地形だ。傾斜の急な道を砂礫の感触を楽しみながら、注意して降りる。バトンタッチするかのようA隊が出発。B隊は少し長めにやすみ、軽く腹ごしらえ。『まるで、セメント採石場だな。』と後で話し声がした。なるほどぴったりの表現である。鳳凰小屋まで下り30分、観音岳まで40分と道標に記されている。

小屋の前、右岸にかけてあったアルミの梯子の所に出るのだろう。岩の斜面をひと登りすると、また平坦な道になり、右手に富士山が現れた。道端のコケモモを食べ、たわいもないこと話ながら進んで行く。弧を描いて続く先に、人影がかたまっている。観音岳山頂なのだろう。もうじき到達しそうな位置にA隊がみえた。登山道沿いに2等三角点があり、そこより一段高い位置に、岩が重なり合ってきた山頂がある。狭く数人でいっぱいになりそうだ。薬師岳・富士山をバックに記念撮影。そうそうに次に向けて出発。富士山を左に、薬師岳を右に見ながらすすむ360度の大展望と、幅広く平坦な道で歩きはますます快適さをましてきた。

薬師岳の山頂はひろく、東側にピークがあり岩峰がみえる、西側は砂地に岩が点在する平らで広い場所だ。広場の真ん中に柱がたっている。すぐ下の木立の間から幕場かと思えるくらいにこじんまりした薬師小屋が見える。立ち止まると思ったより風が冷たいので、岩の陰で昼食をとる。初回、岩登りの練習に使ったツルツルの岩の前にHさんがいる。よく通る声と温かい人柄は安心感が与えられる。今回はA隊と離れ聞く事がなかったが・・・。その代わりおねだりすれば『ショウガネエナ』とやさしくしてくれた頼もしいKさんがB隊におった。正面に座ったYさんがなにやらザックの中身を外に広げている。



観音岳頂上



今年度の山収め・感想の一言、ビデオがまわってきた。とにかく、天候に恵まれ目的を達成出来た事に感謝。導いてくださったGさん・仲間がいてこそその楽しみもある登山を味あわせてくださった皆さんに大感謝！！が一番。そして、日向山に続いて登ったこの山、今日までに多少成長したかを確認出来たことが嬉しい。

すべての山で2回のぼった経験は、金時山と鳳凰だけである。加藤さんに『何年たっても新人だと甘えていてはだめだよ、少しでも努力を続けなければ』といわれた言葉を思い出す。1時間を過ごし、集合写真を撮ったあと中道コースで下山となる。降り始めは頭から落ちそうな傾斜で、その上大岩の間を下るザレ場だ。

正面にデカデカと浮かぶ富士山とナナカマドの赤い実がすばらしい。そこを下りきった時には、A隊の姿が見えた、針葉樹林を歩きはじめた時は声がきこえた、やがて消えてしまい、狭くあれた道を後から追う。はじめはゆるやかに下ってゆく道も、木の根や岩に足をかけておりるような段差や、苔やぬかるみで滑りやすくなったりすることを繰り返す。約2300m。下ることにあき始めた頃、登山道の両側にみごとなごぜんたちばなの大群生があった。意外な出現で元気復活。

少し進んだ陽の当たる場所でA隊が休息していた。山中での合流はこれが最後。なだらかな勾配が続き、木立の根元に笹が広がる景色に変わり、静けさを感じながら緩やかな道を安心して歩いていると竹の根やたまりで転倒をする恐れがある。声もなくひたすら下るのみ、Tさんが倒木についている白い茸はたべられると頻りにいっても採る気がなく通りすぎる。伊藤ママが疲れたみたい、でも頑張っている。

やっと会長がやさしさをだす。荷物の軽減。このコースで水分補給は鳳凰小屋のみだが、そこで汲んだ水に虫がはいってたとか。飲めるとはいえやはり山の中安心できない。林道を横切り薄暗い雑木林の中を下る。水音も聞こえ出し、山栗もおちてるし？ふもとに近づいている気配がしてきたが、道がまちがってない？おかしいな？とつぶやきが聞こえる。案内板はあったし、テープは確認してるけれど・・・心配になってきた。前方にこちらを見ているGさんの姿を発見。救われた。

ここから40分林道を青木鉱泉まで小武川沿い歩くことになる。歩きはじめてまもなく沼津ナンバーの車がこちらに向かって走ってくる。まさか！運転手は後ろ。じゃ誰？さわやかで唯一オベリスクの覇者、あとできいた話だが、車を運転することに賛否両論あったとかで。永尾様だ。乗り込んでから、改めて青木鉱泉までの道のりは遠いことを、実感した。



中道登山口